

小田原ガイド協会だより

— 〇〇〇 第87号 —

NPO法人 小田原ガイド協会

小田原市城内3-22(〒250-0014)
TEL.0465-22-8800 / FAX.0465-22-8814

<http://www.odawara-gaido.com>

巻頭

「コロナ禍の企画ガイドツアー」の実状

所感

勝俣 宏一

台風十九号の傷跡も癒え、令和二年のお正月はいつも通りであった。当年度ガイド協会主催の企画ガイドツアーは二月までに平均四十名が参加され十五企画が順調に実施されていた。新型コロナウイルスに感染した客を乗せたクルーズ船入港停泊の様子が伝えられ、学校に一斉休校の要請が出されたのは二月下旬であった。

協会では次に三月「根府川江之浦企画」、四月「河村城跡企画」の準備が進められていたが『中止』となった。三月三日にはおかげ桜四月三日には山北のソメイヨシノ



桜満開のトンネルを走る御殿場線(山北町)

は満開であった。東京オリンピック・パラリンピックの延期が決定し、小田原では「桜まつり」「おでんサミット」「北條五代まつり」と相次

いでイベントが中止。感染防止対策として手指の消毒に加え『三密(密閉・密集・密接)回避』が標語になった。一時マスクが商品棚から消え不要不急の外出自粛要請が出され四月七日には『緊急事態宣言』が発出された。ガイド協会の活動も休止状態となった。

その後、減少に転じ五月二十五日に宣言が解除され六月前半には県内感染者数ゼロの日もでてきた。企画ガイドツアーは秋からの再開が決まり準備を始めた。ウイルスを撲滅したわけではなく、企画ガイドチラシには次の三項のコロナ対策が記載された。①体温三七・五度以上の方は参加ご遠慮頂くこと。②マスク着用③インカム使用(衛生上イヤホン持参のお願い)と息苦しい制約条件付きでの参加者募集となった。十月「酒匂の今昔を辿るコース」(雨天にもかかわらず二十六名も参加された当日の様子は前号に寄稿)十一月は「西部の里山をめぐるコース」さらに「早雲顕彰五百年の足跡を辿る」をテーマに「総構・一夜城コース」が九月から十二月まで計十六回、十二月は「回遊バスに乗り一夜城跡から石橋山を歩く」初めての企画コースが実施された。いずれも募集定員を超えるお申込みを頂



「酒匂の今昔を辿るコース」
昨年10月実施

き、心苦しくも多くの方々にお断りをするほどの期待度の高さと人氣ぶりであった。並行して協会内では一月から三月までの企画ガイド毎のコースの下見・資料作成・勉強会開催のお知らせ等着々と準備が進められていた。

世間では是非が問われながらGOTOキャンペーンが実施されていた。年末になると得体の知れないコロナウイルスが感染爆発し、年末年始はステイホーム、とうとう一月八日には二度目の「緊急事態宣言」が発令されてしまった。協会でも二月七日までの勉強会・企画本番が全て中止。次年度の企画ガイドも決まり、「さあ!これから」の新年早々またまたのガツカリ。七福神巡りツアーもなく、今ほどにもかくにも「疫病退散」を祈願するばかりである。

(令和三年一月二十五日寄稿)

◆企画ガイド◆

おだわら絶景ウォーキング！
風さわやか西部の里山を巡る

磯崎 知可子

「終わったあゝ」最後のお客様をお見送りしたところで出た心からの声。昨年の2月に始動したこの企画は、5月に本番を迎えているはずだったのにコロナで休止。九ヶ月後の11月21日ようやく無事終了することが

でき、思わず冒頭のセリフとなったわけです。再始動した時はコロナの影響で当初からのメンバーやコースの変更等数々の問題が起き、心折れそうになったこと



苔むした石段の上には水之尾毘沙門天

もありました。が、メンバーたちに支えられて、この「絶景ウォーキング」を実施するべく《晴れおんな？》の面目躍如、三十三名のお客様とともに、超快晴で当日を迎えました。

私はサポートについたので、後方から各ガイドメンバーによる

チームカラーを興味深く観察させてもらいました。解説の時チームのお客様全員に丸く囲まれているメンバー、歩きながら女性客に取り囲まれてハレムのようなになっているメンバー、「○○さんの次のガイドはいつ？」と聞かれるほどの熱烈ファンを作っているメンバー。

初めて参加のお客様にはもちろん大堀切東堀に感激してもらい、急勾配のため危険だからと上らないことにした水尾の毘沙門天の苔むした石段を上りたそうな様子で見ているお客様

に我慢させて先を急いだり、昼食休憩した辻村植物公園のユカリの木の実を初めて見たから旦那様に我慢すると云って持ち帰るお客様や、久野の秀吉陣場跡から足柄平野を一望してその絶景に歓声があがったりと、絶景・古郭・総構・文学・植物・小田原合戦等と盛りだくさんのこの企画は、市外から初参加のお客様が多く、新たな小田原と協会のファンを増やしたと自負しています。

◆企画ガイド◆

紺碧の海と空の下
蜜柑の里をウォーキング

堀川 清子

12月12日回遊バスうめまる号を使つての企画ガイド。バスに乗車したガイド以外は石垣山一夜城で三十名のお客様をお迎えする。

お客様がそろつたグループから出発。広域農道、農免道路と山を下りながら石橋山古戦場へ。そこから早川駅に戻る約7kmのコースである。セイタカアワダチソウとススキがせめぎ合う殺風景な道を下りていくと益田農道完成記念碑に着く。ここからはみかんの里らしくなる。作業用の軽トラが時々ま通る道をのんびり歩く。

相模湾が見えてきた。「紺碧の海と空」ではない。空が青くないと海はどすぐろい。しかも大島が見えない。大島があることで黒潮が相模湾に入りたくさんの魚をもたらすとガイドしたかったのに。使いたくなかった写真を見せた。

幸い、真鶴半島は見えたので、岩海岸から頼朝主従七人が安房まで逃げ延びた話をする。三浦半島

がかすかに見えるだけだったせいかよくもまあ小さな船で行けたものと同難さに思いを馳せていた。

佐奈田霊社といえは与一義忠。与一にまつわるエピソード、伝説などをガイドしたところ屋島で平家の女官が持った扇の的を射つた「那須与一」と混同する人がいた。

佐奈田与一は江戸時代錦絵に描かれるほど人気があったが、国語の教科書に載っている「那須与一」ほどには今は知られていないようだ。中世の始まりの舞台石橋山合戦で活躍した佐奈田与一をもっと宣伝しなくてはと思った。

遠くの景色はあまり見えなかったが、眼下に見られる漁港や海岸線、新幹線や在来線、定置網……。自然いっぱいの中のウォーキングをお客様も楽しんでくれたようだ。



石橋山から相模湾の眺望
当日は望めなかった紺碧の海と空

インタビュー企画

Playback おだわら

ロマンあふれる 「橘地区」への想い

第七回語り手 脇 松雄

■お生れはどちらですか？ 子どものころの思い出は？

二宮の吾妻山のふもと越地で生まれ、学生時代を経て結婚するまでここで過ごしました。

吾妻山は小学校通学路で遊び場でもあったので、いわゆる獣道も熟知するくらい遊び歩いていました。中学校時代には、校庭の整備のために海岸から砂や砂利を運ばされた思い出があります。今でも足腰に自信があるのは、その頃の経験によるものだと思います。

■小田原市へは？

結婚を機に、中村川対岸の羽根尾に新居を構えました。それまでは生家から勤務地の都内へ通勤していました。二宮はのんびりした町で好きでしたが、小田原城を訪れてその雰囲気の良いさに惹かれま

した。そこで、伴侶も小田原生まれの人をと望みました。迎えた妻は蓮正寺出身です。

■ガイド協会入会のきっかけは？

退職後シルバー大学で歴史観光を学びましたが、在学中は暇つぶし程度で過ごしていました。ですから卒業前にボランティアガイドを紹介された時、自分の知識不足を痛感し入会を見送りました。その後二年間独学で復習し、大学同期生より二年遅れでガイド協会に入会しました。

■復習時代は特に歴史に付随する『古事記』『日本書紀』や『天皇史』

「仏さまと神さま」等を勉強しました。ガイドについては、七福神などは面白くてしょうがない。

■入会してから思い出深い出来事などありますか？

指導してくれた先輩から刺激を受け、ガイド対象だけではなく関連する付随的なことを知らないとよいガイドはできないと思いつけられました。得意分野を決めてガイドをする人も多くいました。私は出来るだけ幅広い知識を得るように心がけ、テレビからも参考になる情報を得ていました。

担当した最初の企画ガイドは「人車鉄道に沿って歩く」でしたが、その際に立ち寄った真鶴の洞窟で仏教の凄さを感じ、面白さに目覚め、頼朝の旗揚げや七騎落ちの碑を見て感動したことを覚えて

います。

以前、私のガイドを気に入ってくれた人がいて再度の依頼があり、後からその人が旅行会社の添乗員だと判ったのですが、これが観光バス増加のきっかけとなったと思っています。

■脇さんにとっての橘地区への想いを聞かせてください

小田原のチベットという人がいます。私はその人たちがうらやましがって言う褒め言葉だと思つてゐるんです。小田原市に編入されたのが最後の地域なので、貝塚や古墳とか遺跡の本はあるけど地域全体を注目して研究した本はあまりない。でも最近ようやく少し研究が進んできたようです。橘の地名の由来となった日本武尊時代の書簡も駿河で見つかっています。

縄文時代の貝塚からその当時の生活様式が思い起こされ、弥生時代の珍しい土器や古墳時代の横穴式古墳なども感慨深いです。頼朝の旗揚げにも関わった中村氏が治めた地であり、北条氏と三浦氏がせめぎ合った地域で中村川両岸に互いの対の城(砦)があった等々、古代から中世までを楽しめます。

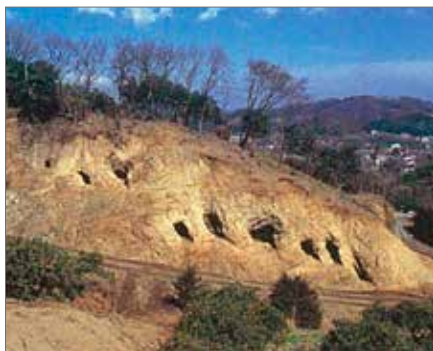
縄文から戦国までロマンあふれる橘地区を様々な想像をめぐらし散歩する。その想いに思わず足が止まる…。本当に楽しいです。

■体調はいかがですか？

視力が衰えてきていますが、昨年の健康診断では全く異常がなくまだまだやれると思つています。健康維持として特別なことはしていませんが、妻が作ってくれるお稲荷さんの弁当が良いのかも知れません。

■後進に伝えたいガイドの心構えを教えてください

私たちは学者ではないので、お客さんには難しい話ではなく、やさしく、面白く話せるようにしないとイケないと思います。その為にも、探求心を持って日々周辺を含めた話題も勉強して欲しいですね。(文責・編集部)



古墳時代後期(6~7世紀)に造られた谷津横穴墓群全景

最近、石垣山城のパンフレットが新しくなった。そのパンフには以前にはない言葉が記載されている。それは「城割り」という言葉である。

***城割りとは**

城割りとは「城郭を破却すること」で『城破りの考古学』（藤木・伊藤二〇〇一）によれば戦国時代から織豊期の廃城手続きを示す用語で「破城」「破却」「下城」「城破り」勿論「城割り」もある。本稿は、主に織豊期・徳川期から近世初頭の城割りについての速報である。

『織豊系城郭とは何か』（松尾二〇一七）に破却についての研究が以下のようにある。「城郭を破却する行為は、中澤「一九九九」によれば、中世には「城郭は不穏なもので破却すべきもの」という観念が一貫して流れており、南北朝期に「国中静謐のため」に城郭を構えるという観念があらわれたという。この二つの城郭観の融合を示すものが、織豊期・徳川期から近世初頭の城割りの政策となる。」

***城割りの歴史**

次に城割りの歴史を戦国時代からみてみる。城割りは織田信長によって本格的に展開される。

永禄一二年十月、伊勢の「国中城々破却」を命じたのが信長による一国破城令の最初である。次に秀吉の城割りであるが、天正八年四月二六日付き「国中城わるへき覚」で、秀吉は播磨の諸城破却を家臣に命じている。これが秀吉の城割りの最初である。天正一一年段階での諸国城割り構想は、天下統一事業の進展後、実施をみることになる。天正十五年五月、秀吉は薩摩を除く九州全域の城割りを発令し、天正十八年八月には「奥羽仕置」を行うが、重要政策として城割りが位置づけられたことがみてとれる。

徳川幕府によって慶長二十年（元和元年）閏六月十三日、一国一城令が発令された。世にいう「元和の一国一城令」である。一国一城令の目的は、西国国持大名の居城・支城体制を破壊することにあつた。島原の乱後の寛

永十五年には、西国大名旧支城に対する再破却が命じられた。以上織田・豊臣・徳川期の城割りについて大まかに見てきた。

***様々な実施要件**

では、具体的な城割りの条件をみておきたい。『戦国の城の一生』（竹井二〇一八）では四項目があげられている。

(一)停戦・和睦による破城
戦いの終結により和睦を実現する条件で、一種の武装解除である。

(二)大名間国分による破城
戦国大名間の戦争は国境地域の争奪戦、戦を終わらせるためには、領土分割協定が必要となつた。この際に城破りが実施されることになる。

(三)整理・統合による破城
天正一八年小田原合戦後、関東支配に関する「宇都宮仕置」がおこなわれた。この時、関

東諸領主は「秀吉」から「入らざる城」つまり領内にある、今後不要な城を破却するよう命じられた。

(四)維持管理困難による破城
領国支配・防衛のため多くの城を築城したが、軍勢は限られており、維持管理できず、使われない城の破城が起きたのである。

***具体的方法**

これまでの城割りの研究によると城割りによって全面的な破却はなく、ほとんどは部分的な破却で終了している。ではその具体的な部分をみることにする。

(一)土塁を崩す
文禄四年秀吉の命で陸奥会津若松領内の特に要害堅固な城については土塁を崩している。

(二)建物を壊す
天正一八年、豊臣軍は上総に侵攻しその戦後処理で秀吉は「破却の城の儀は扉を下ろし、城中家さへこれなく候へば、あい済む事に候間、破りにおよばず候、手間を入れる間敷く候事」（『難波創業録』）と命じ、建物を破却することにより城の機能が停止したことにより城割りとしている。

(三)城を焼く（自焼没落）
中澤氏（一九九九）の研究に



石垣山城南曲輪東面
(筆者城割り指摘部分)



石垣山城南壁面隅角部分
(佐々木健策氏城割り指摘部分)



原城
(発掘された大手門跡)



原城
(発掘された埋門跡)

城割りに関する

よれば、城主自ら城を焼き払う行為である。自分の居場所に自ら放火して別の場所に退散する行為であり、降伏の意思を示す、あるいは容易に屈さず反抗を続けることの意味表示である。

（四）竹木を切り取る

『築城記』（一五六五）には「城の外に木を植えまじきなり。土居の内の方に木を植えて然るべきなり」とある。竹木は依代ともなる繁盛のシンボルであって城の繁盛として竹木は必要とされたのであろう。

（五）虎口・大手・石垣

文献史料に現れる城割りの資料は極少ない。最近では発掘調査によって新事実が発見されてきた。（五）の部分である。

＊破却場所と規模

今まで城割りについて見てきたが、城割りの実態はさまざまである。その多くは部分的な破却のみであり城ごと跡形もなく破却してしまえば、数多くの城跡が現在も存在していないであろう。大半の破却は部分的であり、視覚的に周囲にわかる程度でよく、破却場所は外から見える部分に集中している。そのため、その城の象徴的な部分を破却することが一般的で、よく破

却される部分は、外からみえる建造物、虎口部、石垣の隅角部分、堀等である。

逆に外から見えにくい部分は破却されることが多かった。すべてを破却することは多大な労力と費用が発生する現実的な問題がある。重要なことは「破却」したということを知らせることであった。

先述したなかで跡形もなく城割りが行われた城は少ないとしたが例外的にはある。天草一揆で有名な「原城」である。

『原城発掘』（二〇〇〇）によれば、この城は徹底的に破壊された、城跡全部を土で覆いつくしている。近年発掘調査が進みその破壊の全貌があきらかになつてきた。

＊小田原城のこと

小田原城の城割りについて福

田氏は『城割の作法』（二〇二〇）の中で次のように述べている。「慶長一九年正月一九日忠隣に改易の命が下つた。二一日には上使・城の請取役が小田原入りし、城の明け渡しと家臣の追放を要求した（慶長年録）。家康は小田原に二四日到着、秀忠は二五日に到着し家康と対面した後、本田正信・藤堂高虎と密談した。秀忠が二の丸に戻ると家康は「早天より、この城破却あるべし」と命じ、「江戸・駿府諸卒」を招集して、石垣を崩し、大門を破壊した（駿府記）。正月二七日に小田原を去り駿府・江戸に帰つた。「当代記」には「この間、小田原城二、三の丸を破却せられ本丸ばかり残さるる」とある」

＊石垣山城について

『石垣山一夜城跡現況調査報告』（一九八九）には「石垣山城



肥前名護屋城二の丸石垣破却部



肥前名護屋城二の丸石垣破却部



美濃金山城二の丸虎口部分破却跡



美濃金山城二の丸虎口部分破却跡

速報として 湯山尊明 (写真はすべて筆者撮影)

は関東大震災で馬屋曲輪北櫓が見る影もなく崩れた」と場所を特定している。また「石垣山城の崩れ方を見ています」とあるが場所の特定はなく、今後の発掘調査に期待したい。

学芸員の佐々木氏は、南曲輪南壁隅角部分を城割り部と指摘し、湯山は、南曲輪東壁面と本丸北口枿形部および馬屋曲輪に続く通路部を指摘したい。私は、以前から石垣山城は城割りされたと密かに考えていたが、今回は速報として城割りについて報告した。

【参考文献】

- 『織豊系城郭とは何か』
- 『戦国の城の一生』
- 『肥前名護屋城と「天下人」秀吉の城』
- 『戦国の作法』
- 『原城発掘』
- 『城破りの考古学』
- 『城割の作法』
- 『国史跡美濃金山城発掘調査概報 Ⅰ・Ⅱ』
- 『石垣山一夜城跡現況調査報告』
- 『日本城郭体系⑥』
- 『日本城郭体系⑨』
- 『日本城郭体系⑰』

＊紙数の関係で参考文献の著者・発行元・発行年度は割愛した。詳細については筆者まで。

岩に向かって波が砕け、白い三角マークが浮かび上がる。お馴染みの東映映画マーク。東映といえは、昭和の一時代を画した懐かしい白塗りチャンバラ映画から任侠映画への流れが記憶に残る。当時、東映には、活動写真と呼称された創成期から映画に携わってきた、名匠の誉れ高いヴェテラン監督や名優が数多く居た。なかでも、活動屋の気概で、終始職人監督として日本映画界を担ってきたのがマキノ雅弘監督である。彼の昭和43年作品『侠客列伝』は小田原が舞台。とはいっても、京都撮影所作品なので屋外シーンはほぼオーブンセット。小田原でロケは行われなかったと思しい。

時代は明治40年（一九〇七）。この年、賭博禁止令が公布され、関西の天神一家丸高組が、お上の目をそらすため愛国団体「日本大同會」設立を発案する。その際、小田原の酒匂一家木戸組の親分を世話役に指名し、箱根で結成式を開くことになる。実はその関西の悪玉丸高組の狙いは、箱根や小田原の木戸組の縄張りだった。その関東関西博徒一家による団結の儀式で、木戸組の親分が悪玉から難癖をつけ

られ我慢できずに殴りかかってしまい、この暴行で自らも傷を負って亡くなる。この不祥事で木戸組一家は一年間の謹慎となり、子分たちは忍耐を強いられることになる。実に「忠臣蔵」のような展開で大石内蔵助の役柄を演じるのが、我がが高倉健。役名も大倉伊之助といかにもアナグラムのよう。

木戸組は魚の水揚げを手伝っ

おだわら シネマニア ③

小田原魚市場

上田 信一



【写真】上と中：映画の1シーン
下：小田原漁港卸売市場

侠客列伝

マキノ雅弘監督作品
1968年8月公開/106分

我慢々々の展開になる。当然賭博禁止令で表立って賭場も開けないので、木戸組は子分たちが組を離れるなど、組そのものが窮乏していく。そうこうするうちに網元たちが新しい魚市場を作る動きになる。実際に小田原魚市場が創業したのは、この明治40年のことだった。

明治後期には三軒にまで減少した。そして明治40年三月、うち一軒の商権ならびに施設の譲渡を受け、株式会社小田原魚市場が千度小路で創業開始した。ときの代表者は鈴木善左衛門。大正11年、他の二軒の魚市場を合併し一本化、単数の市場となった。そして映画が公開された年の昭和43年、早川に小田原漁港及び水揚岸壁と卸売市場が建設された。魚市場の開設に伴い、認可を受けて幸町から移転入場し従前の業務を継続。これが現在まで続いている。

ていて網元らと良好な関係を築いていた。いわゆる堅気衆からの信頼が厚かった。ところが、謹慎の木戸組に代わって小田原の縄張（シマ）を治めることになったのが、悪玉丸高組の息がかかった、箱根を挟んだ三島の中杉一家山形組。このような状況下では、任侠映画の悪玉は例外なく堅気衆を虐げいたがる。これに伊之助をはじめ木戸組子分衆は手出しすることができず

いう漁村ができたのが嚆矢とされる。後北条氏の戦国時代、船方村に領主の保護のもと魚座という同業組合が生まれ、漁業およびその商いが活発に行われた。江戸時代になると、魚座の名主や座員の家が八十軒に及んだといわれ、村に魚座の商人たちが魚市を開く市場横丁が形成され、大いに賑わった。しかし、幕末から維新にかけての動乱で自営の市場を持つ漁商は減り、

映画では、この魚市場設立を画策する網元二人を悪玉が闇討ちにしてしまう。いわゆる、堅気衆に手を出してしまつたわけだ。ことここに至って、極悪非道な悪玉の仕打ちに、我慢一筋に耐えてきた伊之助の堪忍袋の緒が切れる。そしてドスを手に、追隨する仲間とともに悪玉の居所に向かう。この正調任侠映画定番の殴り込みシーンは、男気と誇り、そしてストイシズムと、独特の空気を醸し出す。観客がカタルシスを覚え拍手大喝采の場面なのだが、閉幕直前、ことを終えた高倉健の表情はどこか哀しみをたたえている。

リレーエッセイ／わたしの城旅 ⑪

本州の五稜郭と 蕎麦に想う

関森規安

一昨年の初夏、息子の就職先である佐久市を妻の希望で訪ねた。新幹線の開通で画期的に開けた佐久平駅近くのビストロでこたま地産のワインを飲み、翌日、見上げれば手が届きそうな位の迫力、噴煙あがる浅間山を横目に龍岡城を訪ねた。龍岡城は日本に二つしかない星形稜堡（五稜郭）の一つで、松平乗謨（のりたか）が時代も大きく変わろうとしていた慶応三年に竣工させた。



日本に二つしかない星形稜堡
(慶応三年竣工)

わくわくしながら誰もいない稜郭の石垣の周りを、畑の中や通り道が整備されていないぬかるみ、小藪を手で払いながら一周してみる。以外にも妻も面白がっている。息子に会えて満足したのである。母性というものか、私としては元気でやっていけばそれでいいじゃないかとあしらうも、ものすごい抵抗にあう。石垣はきちんと残ってはいるが一部は未完成なのだろう石垣が無い。よくこんなものを城郭の最終形とはいえ建築したものだと感心しきり。しかし私の浅識もあいまって「城」という感じがしないのであった。

さて信州に行ったとなれば蕎麦であろう。私も松本市出身であるが故に蕎麦には目が無いのだが、この頃のいやに硬い蕎麦をこしがあるとか言って喜んで食すのは都会人だけだろう。しかも、蕎麦猪口の底が見えないような濃いつゆを出されて、それを少しつけてはむしやむしや、と蕎麦を食べている。かあつっ!! そんなものは東京で食べろっつうものだ。硬くもなくそばつゆのお替りも一緒に出てくるような名もない食堂の蕎麦、私はこれが大好きである。

【2021年企画ガイド予定】 申込み・お問合せ 0465-22-8800

件名	日時・集合場所	参加費	コース
I 河村城跡と鉄道公園 桜並木と山北の春を歩く	4月3日(土) 約8km 10時～13時頃 御殿場線 山北駅集合	700円	山北駅～ 鉄道公園～河村城跡～桜並木～ 山北駅解散
II 荻窪用水から板橋界隈へ	5月下旬(日付未定)	700円	風祭駅～ 荻窪用水～山縣貯水池～ 板橋用水～古希庵
III イワタバコ咲く 箱根ヶ島溪谷散策	6月下旬(日付未定)	700円	詳細未定

- ・各コース参加申込みは実施日の45日前からです。小田原ガイド協会HPでもご案内しております。
- ・新型コロナウイルスの感染状況等により、延期・中止の場合があります。

【12月以降の退会者】

村島良三さん
中島喜三郎さん
戸田博史さん
島山洋子さん
多田基安さん
ありがとうございました

【編集後記】

二度目の緊急事態宣言の中、今年オンラインで開催されたUMECO主催の新春交流会に参加させてもらいました。するとビンゴ大会でなんと一等になり、豪華景品をゲットしました。
今年のツキを早々に使ってしまったのか、いやいや、今年はずきまくれるのかもななどとくだらない考えをめぐらせながら、庭の紅梅を眺めていてもなら今頃は梅まつりで協会も活気にあふれているのになあ。ステイホームはやっぱり皆さんに会えなくて淋しいです。

表紙や各表題の色を季節のカラーにしてみました。今号は春の桃色です。
(知)

【編集委員】

飯田宗男 磯崎知可子
上田信一 柏木由美子

令和2年度賛助会員

賛助会員のお店は皆様をお待ちしています！

賛助会員の皆様にはガイド協会の活動に賛同しご支援を頂いています。
賛助会員の詳細は小田原ガイド協会HPをクリックしてください。

<http://www.odawara-gaido.com>

☎ 0465-

☎ 0465-

鱒 壺 北 條 080-5465-0066	田中屋本店 22-5545
伊 勢 屋 22-3378	だるま料理店 22-4128
ういろう 24-0560	欄干橋ちん里う 23-1547
魚市場食堂 23-3818	露木木工所 22-5995
江 嶋 22-1661	東 菟 庵 22-4657
小田原種秀本店 22-6238	鳥 かつ 楼 22-2078
籠 清 22-0251	菜 の 花 24-5688
籠 常 商 店 23-1807	箱根屋酒店 22-6416
柏木美術鋳物研究所 22-4328	小田原早川漁村 24-7800
カネタ前田商店 23-4741	平 井 書 店 22-5370
居酒屋 金 時 23-0721	松崎屋陶器店 24-2479
幸 繁 22-5155	マツシタ靴店 24-2233
グリル 木の実 22-2912	万 葉 の 湯 23-1126
さがみ信用金庫 24-3161	柳屋ベーカリー 23-2342
志村屋米穀店 24-2224	山市湯川商店 22-5637
杉 兼 商 店 22-5051	山 安 21-1137
鈴廣かまぼこ 22-2333	R Y O 20-0077
せきしん運輸 42-7375	わらべ菜魚洞 22-4858
田 毎 24-3030	【50音順】